

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11) 特許出願公開番号

特開2005-323660

(P2005-323660A)

(43) 公開日 平成17年11月24日(2005.11.24)

(51) Int.Cl.⁷

A47B 88/00

F I

A47B 88/00

A47B 88/00

E

B

テーマコード (参考)

3B060

審査請求 未請求 請求項の数 4 O L (全 7 頁)

(21) 出願番号 特願2004-142207 (P2004-142207)

(22) 出願日 平成16年5月12日 (2004.5.12)

(71) 出願人 000005832

松下電工株式会社

大阪府門真市大字門真1048番地

(72) 発明者 萩野 知浩

大阪府門真市大字門真1048番地松下電

工株式会社内

Fターム(参考) 3B060 LA01 MA02 MA14

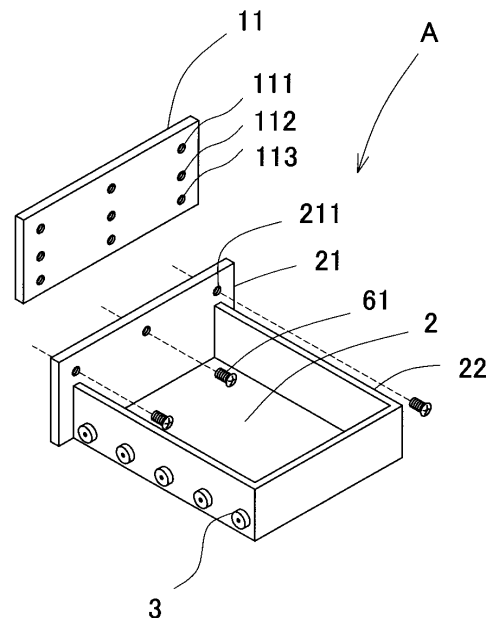
(54) 【発明の名称】 キャビネット用引出し構造

(57) 【要約】

【課題】 個々の需要家で異なるニーズに合わせて引出しの容量を変えることのできるキャビネット用引出しの構造を提供する。

【解決手段】 複数の引出しAをキャビネット5の上下に配設してなる引出しの構造であって、該引出しAは、箱体2と、該箱体2の前板21に取付け位置を上下に変えて取付けられる可動板11とからなるとともに、上記前板21と可動板11とは上記引出しAの前面板1を形成し、上記箱体2を構成する両側面部22の外側にはローラー3を備え、上記キャビネット5の両側板54には該ローラー3をスライド自在に支持するレール部材41、42が設けられたキャビネット用引出し構造。

【選択図】 図1



【特許請求の範囲】**【請求項 1】**

複数の引出しをキャビネットの上下に配設してなる引出しの構造であって、該引出しは、箱体と、該箱体の前板に取付け位置を上下に変えて取付けられる可動板とからなるとともに、上記前板と可動板とは上記引出しの前面板を形成し、上記箱体を構成する両側面部の外側にはローラーを備え、上記キャビネットの両側板には該ローラーをスライド自在に支持するレール部材が設けられたキャビネット用引出し構造。

【請求項 2】

上記引出しを 2 段とし、各箱体の前板の上部に貫通孔を穿設するとともに、上記可動板に上下に一定間隔で前部ネジ孔を列設し、所望の列の前部ネジ孔に上記前板の貫通孔を挿通してビスを螺合することにより上記前面板の高さを可変とした請求項 1 に記載のキャビネット用引出し構造。

10

【請求項 3】

上段の引出しをスライド自在に支持するレール部材の取付け高さが可変となるように、上記一定間隔で列設された前部ネジ孔と同じ間隔でレール固定用ネジ孔がキャビネットの両側板に上下に列設された請求項 1 に記載のキャビネット用引出し構造。

【請求項 4】

上記キャビネットが洗面キャビネットである請求項 1 に記載のキャビネット用引出し構造。

【発明の詳細な説明】

20

【技術分野】**【0001】**

本発明は、引出しの構造に関する。さらに詳しくは、キャビネットの引出しの構造に関する。

【背景技術】**【0002】**

洗面キャビネットやキッチンキャビネット等のキャビネット類には、通常、収納用の引出しが設けられている。上記引出しは、種々の収納物を収める必要があるため、一般的に、高さの異なる引出しを製造段階で複数段設け、収納物の大きさに応じて区分して収納するようにされている。

30

【特許文献 1】特開平 11 - 196957 号公報（第 1 - 3 頁、第 1、2 図）

【発明の開示】**【発明が解決しようとする課題】****【0003】**

しかしながら、上記したように製造段階で引出しの大きさが決められた場合、個々の需要家で収納ニーズに合わせて引出しの高さを変えられないため、例えば、背の高い収納物を収納できない等の問題が生じる。本発明は、このような問題を解決して、製造段階では構成部品数をできるだけ少なくするとともに、需要家サイドで異なる収納物のニーズに合わせて引出しの容量を変えることのできるキャビネット用引出しの構造を提供することをその課題とする。

40

【課題を解決するための手段】**【0004】**

上記課題を解決するため、本発明においては、つぎのような技術的手段を講じている。すなわち、本発明によれば、複数の引出しをキャビネットの上下に配設してなる引出しの構造であって、該引出しは、箱体と、該箱体の前板に取付け位置を上下に変えて取付けられる可動板とからなるとともに、上記前板と可動板とは上記引出しの前面板を形成し、上記箱体を構成する両側面部の外側にはローラーを備え、上記キャビネットの両側板には該ローラーをスライド自在に支持するレール部材が設けられたキャビネット用引出し構造が提供される。

【0005】

50

上記引出しを２段とし、各箱体の前板の上部に貫通孔を穿設するとともに、上記可動板に上下に一定間隔で前部ネジ孔を列設し、所望の列の前部ネジ孔に上記前板の貫通孔を挿通してビスを螺合することにより上記前面板の高さを可変とすることが好ましい。また、上段の引出しをスライド自在に支持するレール部材の取付け高さが可変となるように、上記一定間隔で列設された前部ネジ孔と同じ間隔でレール固定用ネジ孔をキャビネットの両側板に上下に列設することが好ましい。

【０００６】

さらに、上記キャビネットとしては、洗面キャビネットやキッチンキャビネット等の各種キャビネット類があげられるが、好ましくは、洗面キャビネットに上記引出しの構造が適用される。

10

【発明の効果】

【０００７】

請求項１に記載の発明は上記のとおりであり、とくに、引出しの前面板が、箱体の前板とこの前板に取付け位置を上下に変えて取付けられる可動板とから形成されているため、各引出しの前面板の高さを変えることが可能となり、その結果、収納物の大きさに応じて簡単に各引出しの容量を変えることができる。

【０００８】

上記引出しを２段とし、各箱体の前板の上部に貫通孔を穿設するとともに、可動板に上下に一定間隔で前部ネジ孔を列設し、所望の列の前部ネジ孔に上記前板の貫通孔を挿通してビスを螺合することにより、個々の需要家で収納ニーズに合わせて簡単に前面板の高さを

20

【０００９】

また、上段の引出しを支持するレール部材の取付け高さが可変となるように、上記前部ネジ孔の間隔と同じ間隔でレール固定用ネジ孔がキャビネットの両側板に上下に列設されているため、上、下段に配設される引出しの各前面板の高さに合わせて最適のレール固定用ネジ孔の列が選ばれ、選ばれたレール固定用ネジ孔にレール固定用ビスを螺入することにより、個々の需要家で収納ニーズに合わせて上段、下段の引出しの容量を決めることができる。また、上記キャビネットを洗面キャビネットとすることにより、洗面用具、サニタリー用品等を大きさにより区分し、整然と収納することができる。

【発明を実施するための最良の形態】

30

【００１０】

以下、本発明の実施形態について図面を参照して、詳細に説明する。図１は、本発明のキャビネット用引出し構造にかかる引出しＡを示す分解斜視図である。図１から明らかなように、引出しＡは、箱体２と、箱体２の前部を形成する前板２１に取付けられる可動板１１とからなり、上記前板２１と可動板１１とは、ビス６１によって取付け位置を上下に変えて取付け可能とされ、図２に示すように引出しＡの前面板１を構成する。また、箱体２を構成する左右の側面板２２の外側には、各々ローラー３が取付けられ、このローラー３は、後記するように、キャビネットの両側板に設けられたレール部材によってスライド自在に支持される。

【００１１】

40

上記前面板１は、前板２１への可動板１１の取付け位置を変えて取付けることにより、その高さを可変とされている。すなわち、図１に示されているように、可動板１１には上から下に一定間隔で３列に前部ネジ孔１１１、１１２、１１３が設けられているため、前板２１の上部に穿設された貫通孔２１１を挿通して上記３列のうち、所望の列の前部ネジ孔に上記ビス６１を螺入することにより上記前面板１の高さを

【００１２】

図２は、中段に列設された前部ネジ孔１１２に貫通孔２１１を挿通してビス６１を螺入することにより、前板２１と可動板１１とによって前面板１を形成するとともに、その高さを中とした場合を示す斜視図である。図３には、下段に列設された前部ネジ孔１１３に貫通孔２１１を挿通してビス６１を螺入し、前面板１の高さを高とした場合、図４には、

50

上段に列設された前部ネジ孔 1 1 1 に貫通孔 2 1 1 を挿通してビス 6 1 を螺入し、前面板 1 の高さを低とした場合をそれぞれ示す。

【 0 0 1 3 】

つぎに、キャビネットの上下に配設された引出しをスライド自在に支持するレール部材について説明する。図 5 は、下段の引出しをスライド自在に支持する下段レール部材 4 2 をキャビネット 5 の側板 5 4 に固定するとともに、上段の引出しをスライド自在に支持する上段レール部材 4 1 を、その取付け位置を可変として側板 5 4 へ取付ける状態を示す説明図である。図 5 において、キャビネット 5 の側板 5 4 には、レール固定用ネジ孔 5 1、5 2、5 3 が列設され、その間隔は、可動板 1 1 に列設された前部ネジ孔 1 1 1、1 1 2、1 1 3 と同じ間隔とされている。

10

【 0 0 1 4 】

すなわち、上段、下段に配設される引出しのそれぞれの前面板 1 の高さによって最適のレール固定用ネジ孔の列が選ばれ、選ばれたレール固定用ネジ孔にレール固定用ビス 6 2 を螺入して上段レール部材 4 1 を固定する。このようにすることによって、需要家サイドで異なるニーズに合わせて上段と下段の引出しの容量を決めることができる。

【 0 0 1 5 】

図 6 (a) は、洗面キャビネット B のキャビネット 5 に引出し A を上下 2 段に配設し、上段の引出し A の前面板 1 の高さを高とし、下段の引出し A の前面板 1 の高さを低とした状態を示す部分側断面図である。このとき、上段の引出し A をスライド自在に支持する上段レール部材 4 1 は、図 6 (b) に示されているように、最下段のレール固定用ネジ孔 5 3 にレール固定用ビス 6 2 によってビス留めされている。図 7 (a) は、上段の引出し A の前面板 1 の高さを低とし、下段の引出し A の前面板 1 の高さを高とした状態を示す部分側断面図である。このとき、上段の引出し A をスライド自在に支持する上段レール部材 4 1 は、図 7 (b) に示されているように、最上段のレール固定用ネジ孔 5 1 にレール固定用ビス 6 2 によってビス留めされている。

20

【 0 0 1 6 】

なお、上記に示した形態に限られず、上下段に配設される引出し A の高さを両方とも中としてもよい。また、引出し A をキャビネット 5 に上下 3 段に配設することも可能であり、前面板 1 の高さを高、中、低の 3 段階に限られず 4 段階に調節可能としてもよい。さらに、洗面キャビネット B に限られず、キッチンキャビネットに適用してもよい。このように、本発明は種々設計変更可能であり、特許請求の範囲を逸脱しない限りいずれも本発明の技術的範囲に含まれる。

30

【図面の簡単な説明】

【 0 0 1 7 】

【図 1】本発明のキャビネット用引出し構造にかかる引出しを示す分解斜視図である。

【図 2】上記引出しの前面板の高さが中となるように可動板を箱体の前板に取付けた状態を示す斜視図である。

【図 3】上記引出しの前面板の高さが高となるように可動板を箱体の前板に取付けた状態を示す斜視図である。

【図 4】上記引出しの前面板の高さが低となるように可動板を箱体の前板に取付けた状態を示す斜視図である。

40

【図 5】上段の引出しを支持するレール部材のキャビネット側板への取付け状態を示す説明図である。

【図 6】(a) 上段引出しの前面板を高くし、下段引出しの前面板を低くした場合を示す部分側断面図である。(b) 上記のとき、上段引出しを支持するレール部材のキャビネット側板への取付け状態を示す部分側断面図である。

【図 7】(a) 上段引出しの前面板を低くし、下段引出しの前面板を高くした場合を示す部分側断面図である。(b) 上記のとき、上段引出しを支持するレール部材のキャビネット側板への取付け状態を示す部分側断面図である。

【符号の説明】

50

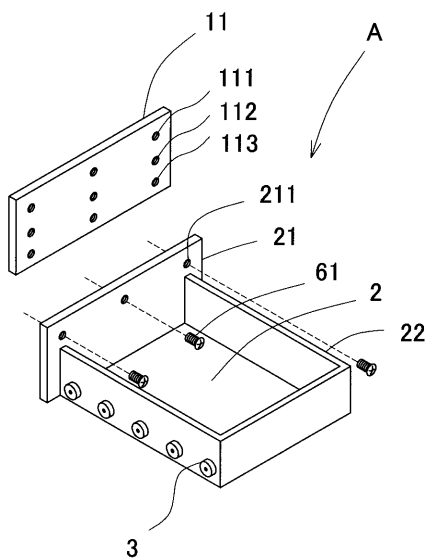
【 0 0 1 8 】

A	本発明のキャビネット用引出し構造にかかる引出し
1	前面板
1 1	可動板
1 1 1	前部ネジ孔
1 1 2	前部ネジ孔
1 1 3	前部ネジ孔
2	箱体
2 1	前板
2 1 1	貫通孔
2 2	側面板
3	ローラー
4 1	上段レール部材
4 2	下段レール部材
5	キャビネット
5 1	レール固定用ネジ孔
5 2	レール固定用ネジ孔
5 3	レール固定用ネジ孔
5 4	側板
6 1	ビス
6 2	レール固定用ビス
B	洗面キャビネット

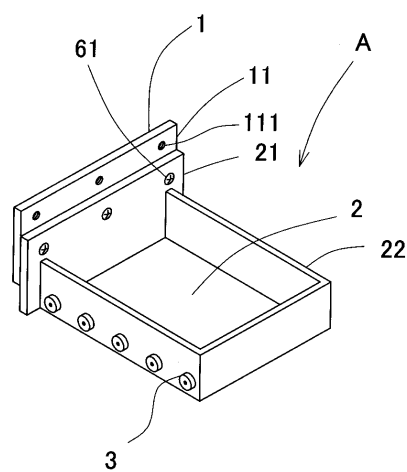
10

20

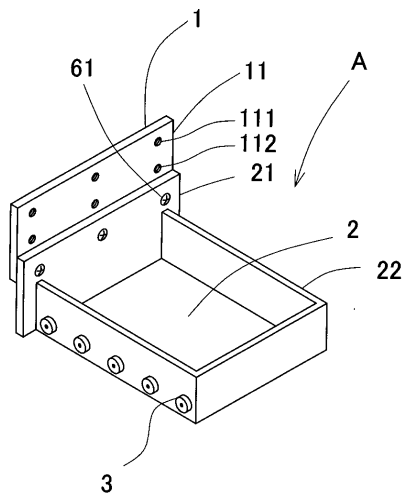
【 図 1 】



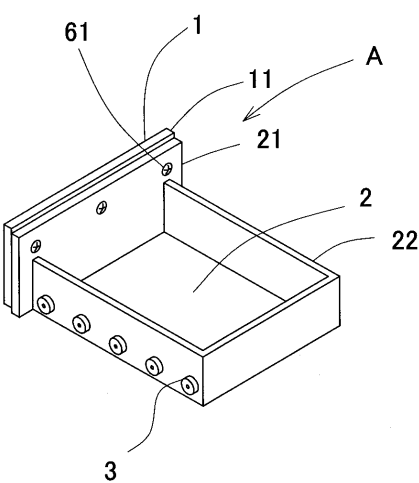
【 図 2 】



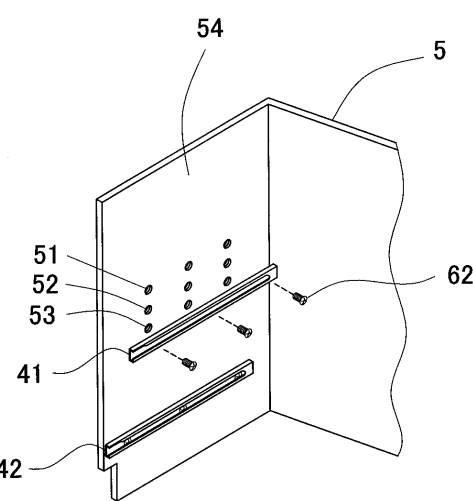
【 図 3 】



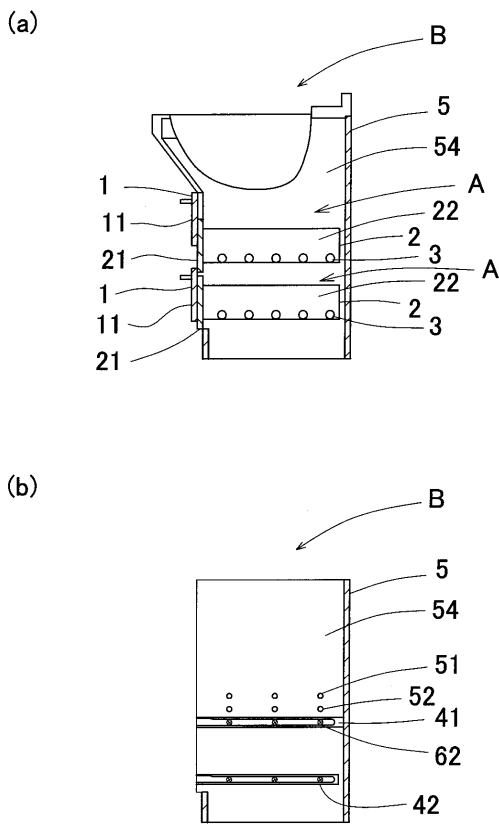
【 図 4 】



【 図 5 】

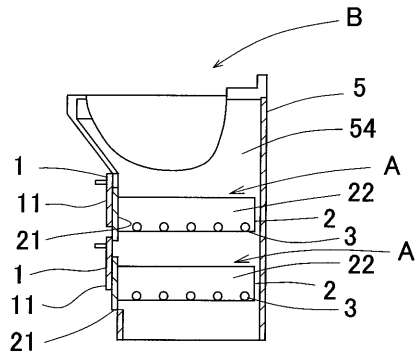


【 図 6 】



【図 7】

(a)



(b)

